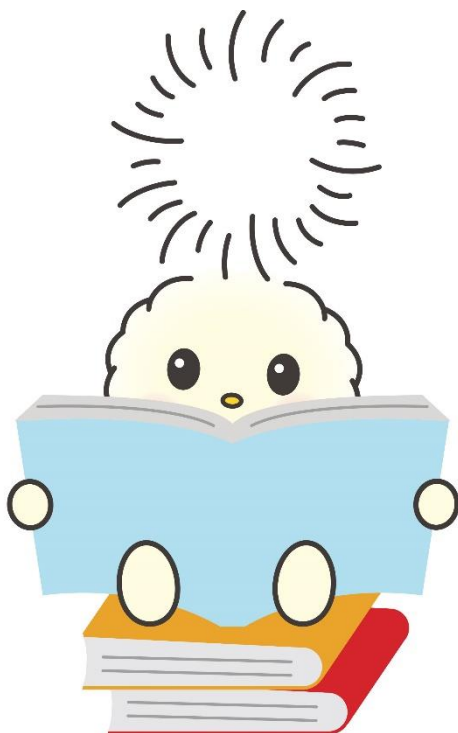


朝霞市の財政

～ぽぽたんといっしょにべんきょうしよう～



©むさしのフロントあさか

令和元年12月

朝 霞 市

目次



第1章 決算から見る朝霞市の財政状況

1	朝霞市の財政状況	1
2	平成30年度全会計の決算状況	2
3	平成30年度一般会計決算（歳入）	3
4	市税収入の推移	5
5	平成30年度一般会計決算（歳出）	6
6	扶助費の推移	9
7	一般会計収支決算の推移	10

第2章 市債残高と基金残高

1	市債残高の推移	11
2	基金残高と財政調整基金の推移	12

第3章 主要な財政指標

1	財政力指数	14
2	経常収支比率	16
3	健全化判断比率	17

第4章 予算編成

1	予算編成の流れ	20
2	令和元年度一般会計当初予算（歳入）	21
3	令和元年度一般会計当初予算（歳出）	22

番外編	ぽぼたんのぎもん	23
-----	----------	----

資料編

1	歳入・歳出決算額の推移	29
2	実質収支の推移（一般会計）	30
3	市債現在高の推移	31

用語集		32
-----	--	----

第1章 決算から見る朝霞市の財政状況



ふわわ〜♪ ぼくは、朝霞市キャラクターの

「ぽぽたん」だよ♪

ぼくと一緒に朝霞市の財政について勉強するぽ！

1 朝霞市の財政状況

朝霞市は都心に近く、交通の利便性に優れるとともに、豊かな自然と景観がある、都会のベッドタウンとしてこれまで発展してきたんだよ。この朝霞ならではの都市と自然のバランスを図り、さらに調和させていくことで、まちが暮らしやすくなると考えているんだ。そこで、平成28年度から第5次朝霞市総合計画で掲げる将来像「私が暮らしつづけたいまち 朝霞」の実現を目指して、日々の行財政運営に取り組んでいるんだよ。

令和元年11月に内閣府が公表した月例経済報告では、「景気は、緩やかに回復している。先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、消費税率の引上げ後の消費者マインドの動向に留意する必要がある。」と指摘されているんだ。

このような財政状況の中、歳入では、国や県などの補助制度を最大限活用しているほか、市税の徴収率向上にも努めているよ。歳出では、限られた財源を有効活用するため、政策主導型の予算編成をしているよ。これは、事業の取捨選択を進めるとともに、既存事業の見直しによる経費の節減に努めているんだ。

ただ、現状では、経常収支比率が94.0%と非常に高い状況で財政の硬直化が続き、依然として朝霞市の財政状況は厳しい局面にあるんだよ。また、厳しい財政状況においても市民サービスの水準を低下させないため、貯金である財政調整基金を活用してきたんだ。平成25年度末に残高がとても少ない状況になったけど、平成26年度以降、市税収入の回復傾向とともに財政調整基金残高を増やしてきたんだ。しかし依然として、朝霞市の財政規模に対しては低い水準となっているんだよ。

また、国の税制改正や地方交付税を取り巻く状況が不透明で、歳入が大幅に増える見込みを立てることは難しく、歳出面では、社会保障関係経費の増加が引き続き見込まれるうえ、公共施設の更新・改修の必要性も高まっていることから、今後、より一層の計画的かつ効率的な財政運営を推進していく必要があるんだよ。

2 平成30年度全会計の決算状況

なるほど！

市では、市民のみんなが必要とするサービスを提供するため、色々な仕事をしているよ。そこで、お金をどのようなことに使うかについて分かりやすくするため、会計という名前のお財布に分けているんだ。

朝霞市では一般会計（1会計）、特別会計（4会計）、公営企業会計（1会計）の3種類、計6つのお財布に分けて事業を実施しているよ。



【決算の総額】

一 般 会 計

歳入 430億2,511万3千円

歳出 416億8,394万5千円

福祉、医療、教育、道路や公園の整備など、市の基本的なサービスを行う会計だよ。
市民のみんなが納めている市税は、主に一般会計に使われているんだ。
一般会計は1つしかないんだよ。

特 別 会 計

歳入 210億9,278万2千円

歳出 205億8,806万8千円

朝霞市の特別会計は、国民健康保険、下水道事業、介護保険、後期高齢者医療保険の4つあるよ。
下水道料金は下水道管を作るために使う、というふうに、特定の収入を特定の支出に使うため、一般会計とは区別しているよ。

公 営 企 業 会 計

歳入 29億5,325万4千円

歳出 32億6,373万2千円

水道事業の1会計だよ。民間企業と同じように、基本的には事業の収益でまかなわれているよ。水道事業は水道料金で運営しているよ。

3 平成30年度一般会計決算（歳入）

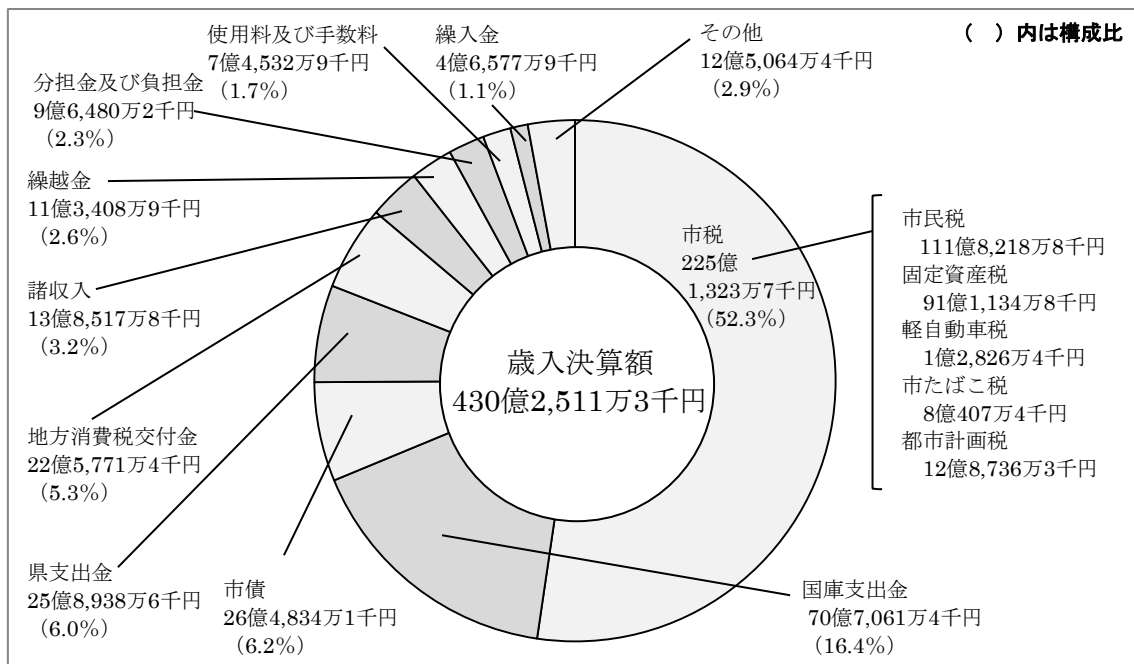
【歳入の状況】

市では1年間に入ってくるお金を「歳入」と呼ぶんだよ。歳入には、下のグラフにあるように、市税だけでなく、国や県からもらうものや、施設の使用料など、色々な種類があるんだ。

歳入決算額とは、1年間の歳入総額のことだよ。前年度より15億993万2千円（3.6%）多かったよ。

市民のみんなが納める市税は、前年度より4億8,222万6千円（2.2%）多かったよ。

また、前年度と比べて、国からは1億691万円（1.5%）多く、県からは1億7,410万5千円（7.2%）多くもらったよ。



平成31年3月31日現在人口 14万218人

市民1人当たりの市税負担額					16万559円
市民税	固定資産税	軽自動車税	市たばこ税	都市計画税	
7万9,749円	6万4,980円	915円	5,734円	9,181円	

グラフを見て、朝霞市の歳入は、半分以上が市税だということが分かったかな？

わかったぽ！

市税などが
増えたんだね

【歳入決算額の前年比較】

(単位：千円・%)

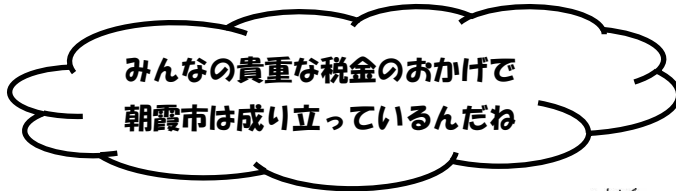
区 分	平成 30 年 度		平成 29 年 度		増 減 額	対前年比
	決 算 額	構成比	決 算 額	構成比		
★ 市 税	22,513,237	52.3	22,031,011	53.1	482,226	102.2
★ 市 民 税	11,182,188	26.0	10,800,136	26.0	382,052	103.5
★ 固 定 資 産 税	9,111,348	21.2	9,026,731	21.8	84,617	100.9
★ 軽 自 動 車 税	128,264	0.3	123,718	0.3	4,546	103.7
★ 市 た ば こ 税	804,074	1.8	800,359	1.9	3,715	100.5
★ 都 市 計 画 税	1,287,363	3.0	1,280,067	3.1	7,296	100.6
地 方 譲 与 税	217,545	0.5	215,174	0.5	2,371	101.1
利 子 割 交 付 金	34,182	0.1	33,775	0.1	407	101.2
配 当 割 交 付 金	95,210	0.2	116,268	0.3	△ 21,058	81.9
株式等譲渡所得割交付金	87,835	0.2	127,269	0.3	△ 39,434	69.0
地 方 消 費 税 交 付 金	2,257,714	5.3	2,009,905	4.8	247,809	112.3
ゴルフ場利用税交付金	12,951	0.0	13,514	0.0	△ 563	95.8
自動車取得税交付金	92,650	0.2	89,353	0.2	3,297	103.7
国有提供施設等所在 市町村助成交付金	121,142	0.3	121,385	0.3	△ 243	99.8
地 方 特 例 交 付 金	161,086	0.4	132,483	0.3	28,603	121.6
地 方 交 付 税	291,488	0.7	322,964	0.8	△ 31,476	90.3
普 通 交 付 税	123,664	0.3	208,235	0.5	△ 84,571	59.4
特 別 交 付 税	167,824	0.4	114,729	0.3	53,095	146.3
交通安全対策特別交付金	13,035	0.0	14,117	0.0	△ 1,082	92.3
★ 分 担 金 及 び 負 担 金	964,802	2.3	920,729	2.2	44,073	104.8
★ 使 用 料 及 び 手 数 料	745,329	1.7	723,030	1.8	22,299	103.1
国 庫 支 出 金	7,070,614	16.4	6,963,704	16.8	106,910	101.5
県 支 出 金	2,589,386	6.0	2,415,281	5.8	174,105	107.2
★ 財 産 収 入	59,611	0.1	48,088	0.1	11,523	124.0
★ 寄 附 金	63,909	0.2	40,375	0.1	23,534	158.3
★ 繰 入 金	465,779	1.1	384,144	0.9	81,635	121.3
★ 繰 越 金	1,134,089	2.6	1,065,725	2.6	68,364	106.4
★ 諸 収 入	1,385,178	3.2	1,346,615	3.3	38,563	102.9
市 債	2,648,341	6.2	2,380,272	5.7	268,069	111.3
合 計	43,025,113	100.0	41,515,181	100.0	1,509,932	103.6

※★は自主財源を、それ以外は依存財源を表しているよ。

【自主財源と依存財源】

自主財源とは、市税など市が自主的に収入できる財源のことなんだよ。
平成30年度一般会計決算では、歳入総額の63.5%が自主財源なんだ。
一方、依存財源とは、国や県などからもらうものや、借り入れた収入などのことをいうよ。

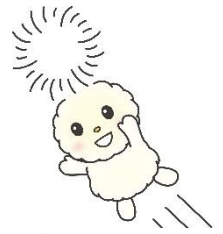
内容によって種類が
分けられるんだね！



4 市税収入の推移

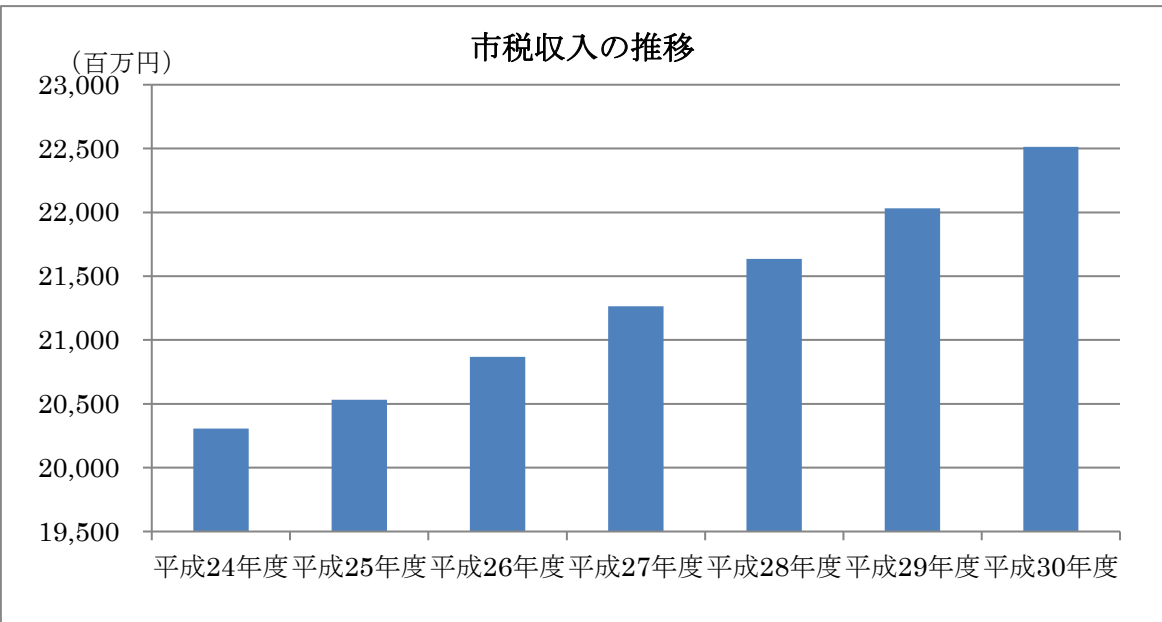
市税収入額の推移は以下の表のとおりだよ。

平成30年度は、個人市民税などが増えた結果、市税収入の合計も前年度より、4億8,222万6千円(2.2%)増えたよ。



(単位:千円)

歳入	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
市民税(個人)	8,992,563	9,110,183	9,189,758	9,419,228	9,725,466	9,930,809	10,278,259
市民税(法人)	917,903	847,986	910,391	856,917	830,084	869,327	903,929
固定資産税	8,350,834	8,410,543	8,597,231	8,785,484	8,851,154	9,026,731	9,111,348
軽自動車税	83,382	86,441	90,134	94,629	117,904	123,718	128,264
市たばこ税	767,288	873,048	851,848	851,344	843,830	800,359	804,074
都市計画税	1,194,332	1,204,448	1,229,813	1,255,927	1,266,318	1,280,067	1,287,363
市税合計	20,306,302	20,532,649	20,869,175	21,263,529	21,634,756	22,031,011	22,513,237



ほぼたんのぎもん① → P23で解説するよ！

近年、市税収入は毎年増えているんだ。

市税は大事な財源だから、今後も大事にしていかななくちゃいけないね。
朝霞市の場合、もしも市税が減収になると、どうなるかわかるかな？



5 平成30年度一般会計決算（歳出）

お金を何に
使うのかな？

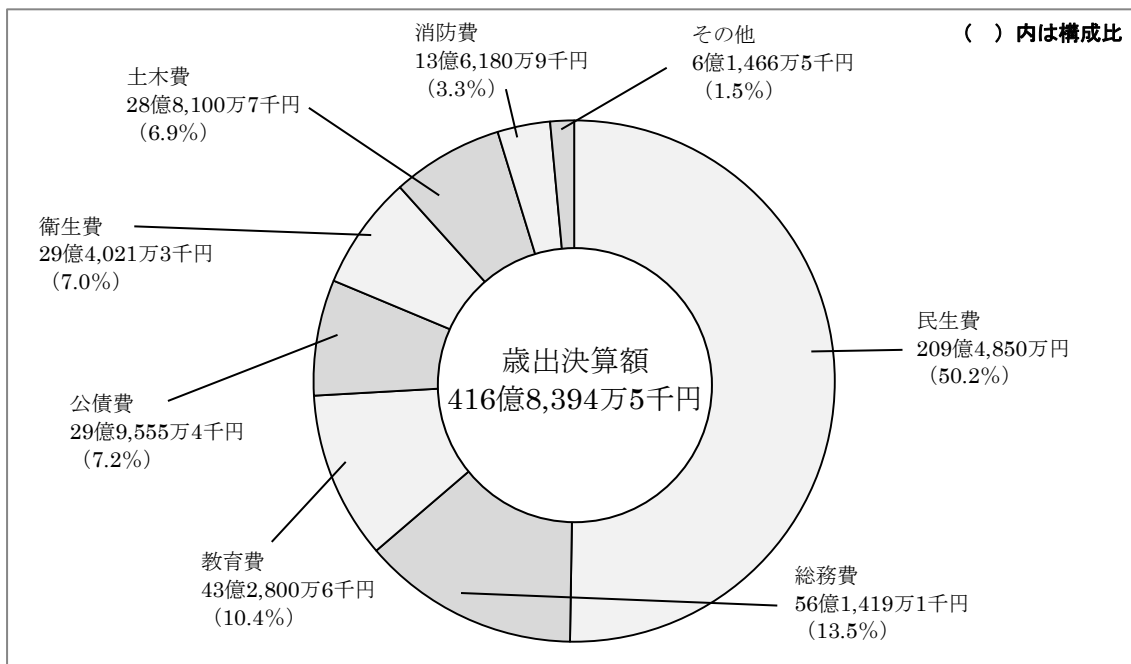
【目的別歳出の状況】

市では1年間に使うお金のことを「歳出」と呼ぶんだよ。

下のグラフは、お金を使った目的別に分けているんだよ。目的別とは、どんな目的を達成するために使ったお金なのかで歳出を分ける方法のことだよ。歳出では、目的別で表す以外に、使った性質別で表すこともあるんだ。性質別については、P8で説明するよ。

歳出決算額とは、歳出総額のことだよ。前年度より
13億285万3千円（3.2%）多かったよ。

民生費は毎年増えていて、下のグラフを見ると歳出総額の半分
以上を占めているんだ。今後も増えていくと考えられているよ。



平成31年3月31日現在人口 14万218人

市民1人あたりに使われたお金							29万7,280円
民生費	総務費	教育費	公債費	衛生費	土木費	消防費	その他
14万9,400円	4万39円	3万866円	2万1,364円	2万969円	2万547円	9,712円	4,383円

ぽぽたんのぎもん② → P23・24で解説するよ！

P3の市民一人当たりの市税負担額より、上の表の使われたお金の方が
多いのは为什么呢？

歳出の半分以上を占めている民生費には、具体的にどんなサービスが
あって、何で今後も増えていくか、ぽぽたんはわかるかな？

民生費や教育費などが
増えているね



【目的別歳出決算額の前年比較】

(単位：千円・%)

区 分	平成30年度		平成29年度		増減額	対前年比	主 な 増 減 理 由
	決 算 額	構成比	決 算 額	構成比			
議 会 費	274,191	0.7	280,862	0.7	△ 6,671	97.6	職員人件費の減 △3,631 議員共済会共済給付費負担金の減 △1,642 議会運営事業 費用弁償の減 △712
総 務 費	5,614,191	13.5	5,507,994	13.6	106,197	101.9	旧自然の家解体工事の減 △121,716 旧第四小学校解体工事の増 433,523 庁舎施設耐震化事業の減 △399,816 市民会館施設耐震化事業の増 179,563
民 生 費	20,948,500	50.2	20,494,668	50.8	453,832	102.2	介護給付・訓練等給付費負担金の増 199,244 経済対策臨時福祉給付金給付事業の減 △214,224 児童館建設事業の増 132,375 子どものための教育・保育給付負担金の増 405,923 民間保育園等補助金の増 46,672 生活保護費の減 △70,505
衛 生 費	2,940,213	7.0	2,720,861	6.7	219,352	108.1	保健センター施設耐震化事業の増 175,291 ごみ焼却処理施設補修工事の増 27,972 粗大ごみ処理施設補修工事の増 12,680 ごみ焼却処理施設整備計画策定委託料の減 △14,882
労 働 費	1,368	0.0	1,397	0.0	△ 29	97.9	勤労者住宅資金貸付利子補給補助金の減 △35
農林水産業費	68,165	0.2	65,387	0.2	2,778	104.2	既存農園整備工事の増 2,273 農業近代化設備事業費補助金の増 2,122
商 工 費	270,901	0.6	261,610	0.7	9,291	103.6	ふるさと納税事業支援サービス委託料の増 18,223 小口等融資貸付預託金の減 △10,529 産業文化センター施設改修工事の増 4,601
土 木 費	2,881,007	6.9	2,799,268	6.9	81,739	102.9	道路用地取得事業 道路用地購入費の増 202,449 宮戸二丁目土地区画整理推進事業の増 50,000 緑ヶ丘通線整備事業 街路用地購入費の減 △116,109 観音通線整備事業の減 △227,325 基地跡地公園・シンボルロード整備事業の増 82,737 朝霞駅ホームドア設置費負担金の増 115,000
消 防 費	1,361,809	3.3	1,460,707	3.6	△ 98,898	93.2	朝霞地区一部事務組合消防負担金の減 △14,790 消防団詰所改築工事の減 △93,679 防火水槽撤去に伴う補償料の増 10,439
教 育 費	4,328,006	10.4	3,808,949	9.4	519,057	113.6	小学校施設改修事業 体育施設整備工事の増 123,806 浜崎学校給食センター施設改修工事の増 237,629 博物館施設改修事業の増 78,538 総合体育館施設改修工事の増 117,840 公園体育施設改修工事の減 △76,088
公 債 費	2,995,554	7.2	2,979,347	7.4	16,207	100.5	地方債元金の増 50,450 地方債利子の減 △34,243
諸 支 出 金	40	0.0	42	0.0	△ 2	95.2	土地開発基金繰出金の減 △2
合 計	41,683,945	100.0	40,381,092	100.0	1,302,853	103.2	

議会費…議会の活動のための経費

総務費…徴税・戸籍・選挙・統計などのための経費

民生費…福祉や保育など、住民の一定水準の生活を確保し、安定した社会生活を保障するための経費

衛生費…公害対策やごみ処理など、住民の健康で衛生的な生活環境を保持するための経費

労働費…労働者を支援する各種事業のための経費

農林水産業費…農業の改良や組合の指導育成、農業施設の管理のための経費

商工費…中小企業への融資支援、商工業の振興などのための経費

土木費…道路橋りょうの整備・改良、都市計画などのための経費

消防費…災害から地域住民の生命と財産を守るために必要な消防設備などの整備を行うための経費

教育費…学校・博物館・公民館・図書館などの施設の設置管理、その他教育や学術文化に関する事務を行うための経費

公債費…市が借入れした市債（借金）の元金、利子の償還（返済）費

色々なことにお金
が必要なんだね



【性質別歳出決算額の推移】

今度は、一般会計決算を使った性質別に見てみよう。
性質別とは、「給与として払った」、「工事のために使った」など、
その支払いの性質によって歳出を分ける方法のことだよ。

(単位:千円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人件費	6,235,014	6,060,348	6,966,792	7,070,046	7,147,061	7,189,633	7,282,685
(うち職員給)	4,249,545	4,115,683	4,291,136	4,344,482	4,510,490	4,516,036	4,604,818
扶助費	8,936,150	9,254,243	9,734,826	10,748,543	11,392,315	12,258,492	12,818,505
公債費	3,155,720	3,200,426	3,154,633	2,996,465	2,986,810	2,979,347	2,995,554
物件費	8,018,211	8,104,345	7,487,852	7,499,001	7,641,636	7,712,361	7,795,945
維持補修費	457,547	389,147	394,227	349,299	379,823	348,801	357,303
補助費等	3,782,530	3,756,105	4,405,043	4,198,162	3,958,928	4,127,148	4,145,368
繰出金	2,201,085	2,704,530	2,265,975	2,454,199	2,367,398	2,389,629	2,185,851
貸付金	133,790	129,260	119,530	112,440	102,844	96,658	87,759
積立金	1,397	505,770	659,328	857,300	518,761	538,078	709,015
普通建設事業費	2,240,696	1,512,769	1,496,413	1,739,539	2,699,912	2,740,945	3,305,960
合計	35,162,140	35,616,943	36,684,619	38,024,994	39,195,488	40,381,092	41,683,945

人件費…市長・市職員の給与、市議会議員の報酬などの経費

扶助費…生活保護や児童福祉、障害者福祉などの社会保障に要する経費

公債費…地方債の元金の返済や利子の支払いにかかる経費

物件費…施設の光熱水費や消耗品、備品購入費、各種委託料などに要する経費

補助費等…各種団体に対する補助金や講師への謝礼などに要する経費

繰出金…特別会計に支出するための経費

普通建設事業費…道路、学校などの施設の建設事業などに要する経費

その他…施設の修繕料などのための「維持補修費」や、財政調整基金などに積み立てる「積立金」等

平成30年度は、子ども・子育て支援事業について
支出が増えたため、扶助費が最も増えているよ。
扶助費について、次のページで説明するね。

毎年増えている
扶助費（ふじょひ）
ってなんだろう？



扶助費は、生活を
支えるお金なんだね

6 扶助費の推移

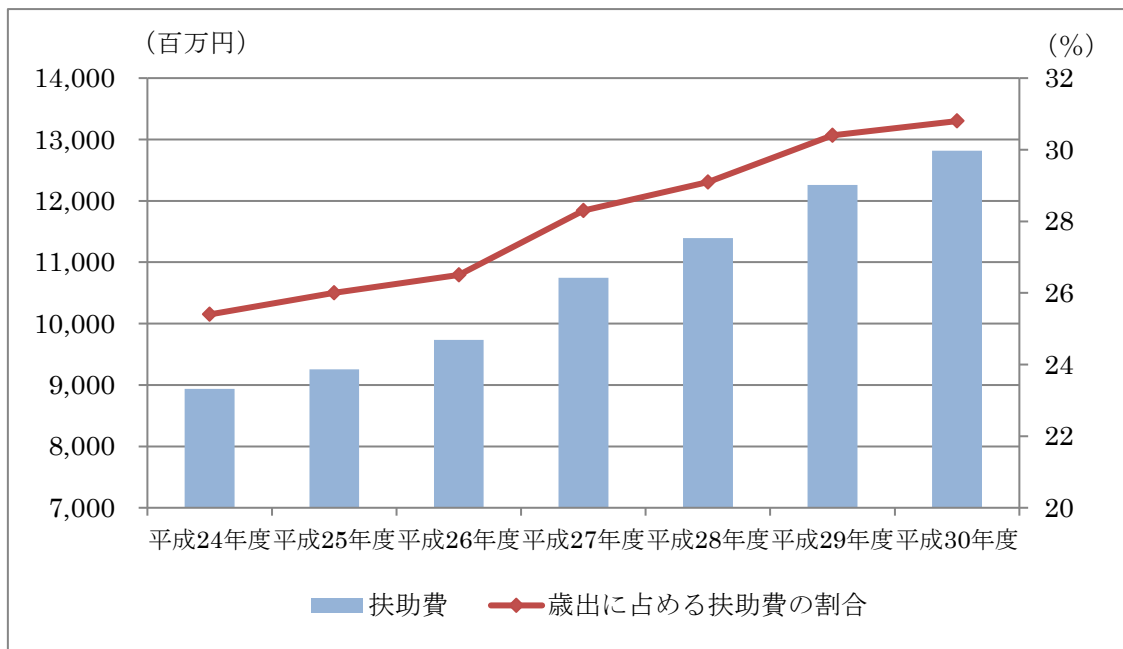
扶助費とは、生活に困っている方や子育てをしている方、障害のある方や高齢の方などの生活を支えるためのお金のことだよ。毎年増えているよ、今年度も前年度より5億6,001万3千円増えているよ。

今後も障害福祉サービスや保育需要の増加などに伴って、扶助費が増えていくと予想されているよ。

だから、ほかの事業のために使えるお金が減ってきてしまっているんだ。
でもね、扶助費はみんなの生活を支えるお金だから、とっても大切なんだよ。

(単位:千円・%)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
扶助費	8,936,150	9,254,243	9,734,826	10,748,543	11,392,315	12,258,492	12,818,505
歳出総額	35,162,140	35,616,943	36,684,619	38,024,994	39,195,488	40,381,092	41,683,945
歳出に占める 扶助費の割合	25.4	26.0	26.5	28.3	29.1	30.4	30.8



ぽぽたんのぎもん③ → P24で解説するよ！
扶助費の平成30年度と平成24年度の決算額を比べると、約1.4倍になっていて、これから先も増えていくことが予想されているんだ。
そうすると、財政状況はどうなっていくのかな？

むずかしいぽ・・・



歳入と歳出を比べると・・・？！



7 一般会計収支決算の推移

一般会計の収支決算状況は以下の表のとおりだよ。

用語については下で説明するね。

平成30年度決算は実質単年度収支が黒字だったよ。これは、単年度収支が黒字かつ、積立金の積立が取り崩しより多かったことが要因だよ。

(単位:千円)

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
歳入総額	A	36,238,221	37,035,171	37,632,149	39,099,215	40,261,213	41,515,181	43,025,113
歳出総額	B	35,162,140	35,616,943	36,684,619	38,024,994	39,195,488	40,381,092	41,683,945
歳入歳出差引額 (A-B)	C	1,076,081	1,418,228	947,530	1,074,221	1,065,725	1,134,089	1,341,168
翌年度に繰り越 すべき財源	D	65,830	101,533	43,753	64,835	60,672	114,661	221,698
実質収支 (C-D)	E	1,010,251	1,316,695	903,777	1,009,386	1,005,053	1,019,428	1,119,470
単年度収支	F	△ 38,204	306,444	△ 412,918	105,609	△ 4,333	14,375	100,042
積立金	G	903	505,434	658,835	853,903	518,521	532,062	703,636
繰上償還金	H							
積立金取崩し額	I	406,361	805,804	279,453	141,705	54,911	303,432	363,853
実質単年度収支 (F+G+H-I)	J	△ 443,662	6,074	△ 33,536	817,807	459,277	243,005	439,825

【実質収支 (E)】

歳入歳出差引額から翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた数値で、その年度の実質的な収支（黒字、赤字）を表すよ。

【単年度収支 (F)】

当該年度の歳入には、その前年度の実質収支も繰越金として引き継がれているため、当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いて、1年間で黒字であったか赤字であったかを表すよ。

【実質単年度収支 (J)】

実質的な黒字要素（財政調整基金への積立金や債務を繰り上げて償還した繰上償還金）や赤字要素（積立金取崩し額）が、歳入・歳出に措置されなかった場合、単年度収支がどのようになっていたかを表すよ。

ぽぽたんのぎもん④ → P25で解説するよ！
黒字ということは、朝霞市はお金持ちだと思うかな？

黒字なら
大丈夫…？



第2章 市債残高と基金残高

1 市債残高の推移

借金があるんだね！

市債とは、市の借金だよ。道路や学校、保育園など長い期間利用できる公共施設を整備するときなどに借りるんだ。大きい工事などをする際は、たくさんお金がかかるため、その年度の歳入だけで支払うのは難しいんだ。また、市民が長い期間にわたって使う施設であれば、それを将来利用する市民にも借金の返済という形で負担してもらうんだ。そうして世代間負担の公平性を保っているんだよ。



朝霞市は、返す金額以上に多く借金をしないようにして、なるべく残高を減らすように、計画的に運用しているんだよ。それによって、一般会計における市債残高は減少傾向にあるんだよ。下水道事業と水道事業を含めた朝霞市全体でみると令和元年度末は少し増える見込みだよ。これは、水道施設耐震化事業や老朽管更新事業などに対する借入額が多くなりそうだからなんだ。

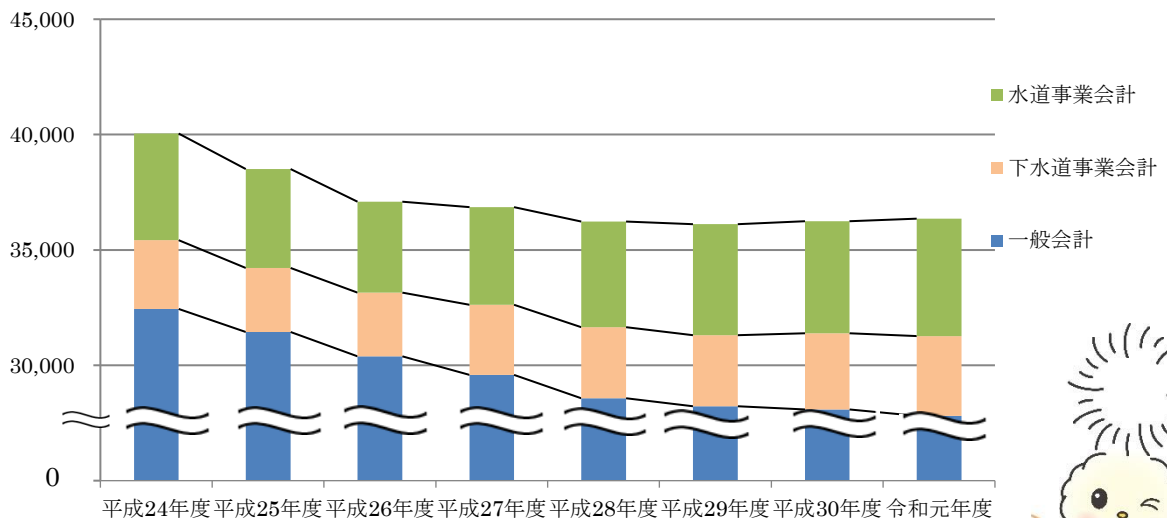
【全会計の市債残高】

(単位: 千円)

	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	令和元年度末 (見込)
一般会計	32,442,721	31,441,606	30,386,209	29,587,241	28,571,896	28,221,744	28,089,210	27,809,967
下水道事業会計	2,981,055	2,783,330	2,771,444	3,038,948	3,086,945	3,088,505	3,301,646	3,457,741
水道事業会計	4,621,789	4,283,309	3,931,418	4,235,746	4,566,720	4,807,088	4,851,916	5,087,003
合計	40,045,565	38,508,245	37,089,071	36,861,935	36,225,561	36,117,337	36,242,772	36,354,711

※令和元年度については、令和元年9月末時点の見込みだよ。

(百万円)



市債（借金）には、現在の市民と将来の市民の負担を平等にする効果と、毎年の出費の偏りをなくす効果があるんだ。

上手に借金を使っているんだね

ちゃんと貯金も
あるんだね！



2 基金残高と財政調整基金の推移

【基金残高】

基金とは、決まった目的のために使う貯金のことだよ。でも、財政調整基金だけは、不測の事態に備えるために貯めている貯金だよ。朝霞市の一般会計では、ルールを決めて5つの基金を設置しているよ。

基金名	基金の目的	平成30年度末 現在高（千円）
財政調整基金	年度間の財源が不足した場合に備えて、必要な資金を積み立てているよ。	2,575,460
基地跡地整備基金	基地跡地の整備のために必要な資金を積み立てているよ。	323,918
みどりのまちづくり基金	緑地の保全や緑化の推進に必要な資金を積み立てているよ。	15,230
土地開発基金	土地を買うために必要な資金を積み立てているよ。	3,050,679
福祉資金貸付基金	福祉資金の貸付けに必要な資金を積み立てているよ。	11,754
合 計		5,977,041

前の年の決算で余ったお金は、財政調整基金に2分の1以上の額を積み立てる（貯金する）か、地方債の繰上償還（借金の返済を前倒し）をしないといけないんだよ。たくさんお金が余ったからといってどんどん使っていると、収入が少ないときなどに対応できなくなるからね。次のページで財政調整基金について説明するよ。



余裕があるときに財政調整基金に
貯めておいて、厳しいときに備え
るんだね

イザというときのための貯金！

【財政調整基金】

財政調整基金は、景気の影響などで大幅に税収が減る、地震や台風などの災害がおきた時などによる思わぬ支出が増えるなど、思いもよらない収入の減少や予定外の支出の増加に備えて、安定した財政運営を行う（市民サービスを提供する）ために積み立てている貯金なんだよ。



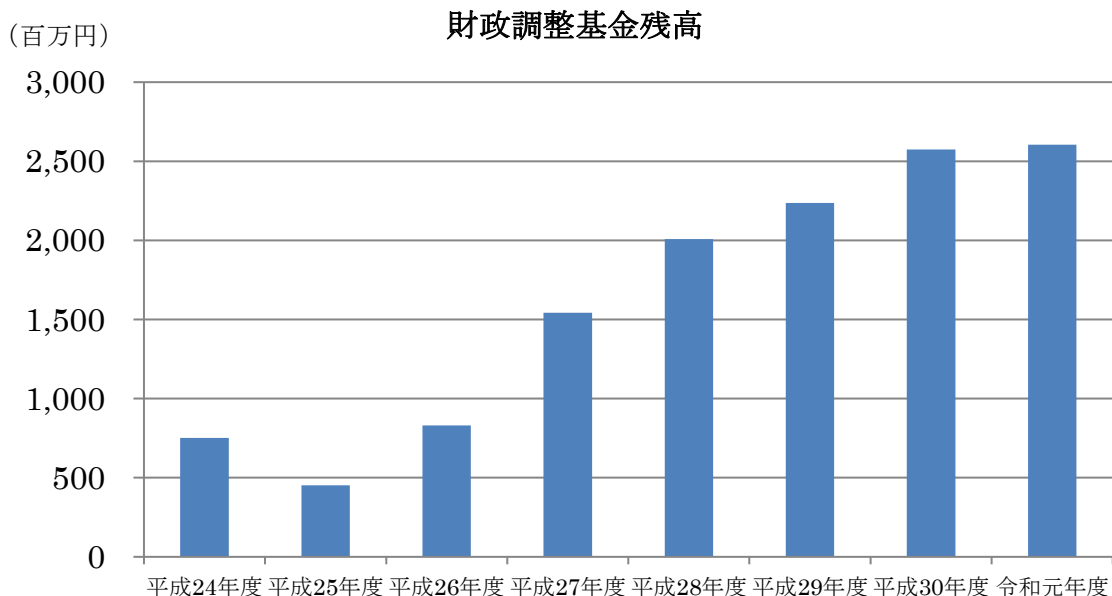
（単位：千円）

	平成24年度末 現在高	平成25年度末 現在高	平成26年度末 現在高	平成27年度末 現在高	平成28年度末 現在高	平成29年度末 現在高	平成30年度末 現在高	令和元年度末 現在高(見込)
財政調整基金	752,226	451,857	831,238	1,543,436	2,007,046	2,235,677	2,575,460	2,604,665

※令和元年度については、令和元年9月時点の見込みだよ。

景気の影響を受け、市税収入が伸び悩む中であっても市民サービスの水準を低下させないため、財政調整基金を使った財政運営を行ってきたんだ。その結果、平成25年度までは基金が毎年減っていたんだ。

その後、景気回復にあわせて市税収入も回復し、平成26年度からは基金へ貯金できるようになったんだ。その後も毎年基金に貯金していて、令和元年度末も増えそうだよ。でもね、まだまだ朝霞市の財政規模に対しては低い水準だし、今後の市税収入もどう変わっていくか分からないから、安定した財政運営を行うためには、ある程度の残高は確保しておく必要があるんだ。



ぽぽたんのぎもん⑤ → P25で解説するよ！
借金があるのに、貯金もあるね。何か理由があるのかな？

なんでだろう？



第3章 主要な財政指標

他の市の平均と
比べてみたよ

1 財政力指数

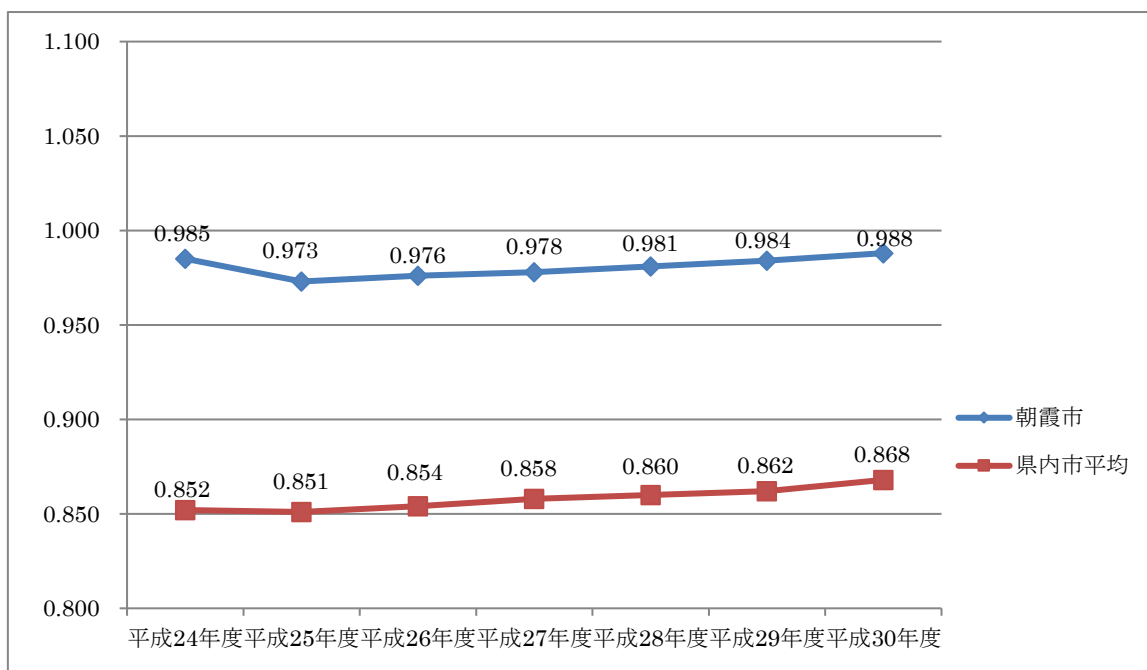
財政力指数とは、市民サービスを行うために必要なお金を自分の力でどれだけ準備できるかを示す指標のことだよ。通常過去3か年の平均で表されるよ。財政力指数が大きいほど力が強いんだけど、この指数が「1」を超えると、国から普通交付税がもらえなくなるんだ。

平成30年度の財政力指数は、高い順（良い方）からみて、県内40市中4番目だったよ。

朝霞市は県内市平均を上回っているよ。だけど、財源の中心が市税だから、景気が良くなると高く、悪くなると低くなりやすいという特徴があるんだよ。



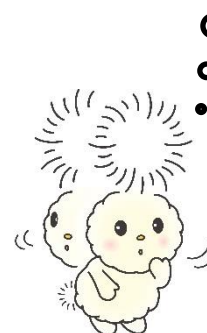
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
朝霞市	0.985	0.973	0.976	0.978	0.981	0.984	0.988



ほぼたんのぎもん⑥ → P26で解説するよ！

財政力指数は大きいほうが財政力は強いけど、「1」を超えると国から普通交付税をもらえなくなっちゃうんだ。
財政力指数は「1」を超えたほうがいいのか？
それとも超えないほうがいいのか？

どっちだろう？



～コーヒーブレイク～ 普通交付税とは??



休憩だぼ。

普通交付税とは、地方交付税の一つで、地方公共団体ごとに「基準財政需要額」と「基準財政収入額」を算出し、「基準財政需要額>基準財政収入額」となる場合に交付される一般財源のことだよ。「基準財政需要額」は、地方公共団体ごとに合理的・客観的な指標をもとに計算された標準的な行政経費（支出）のことで、「基準財政収入額」は、標準的な一般財源となる収入のことなんだ。だから、市が独自のサービスなどで支出を増やしたとしても、普通交付税が増加するとは限らないんだ。

【普通交付税のイメージ】

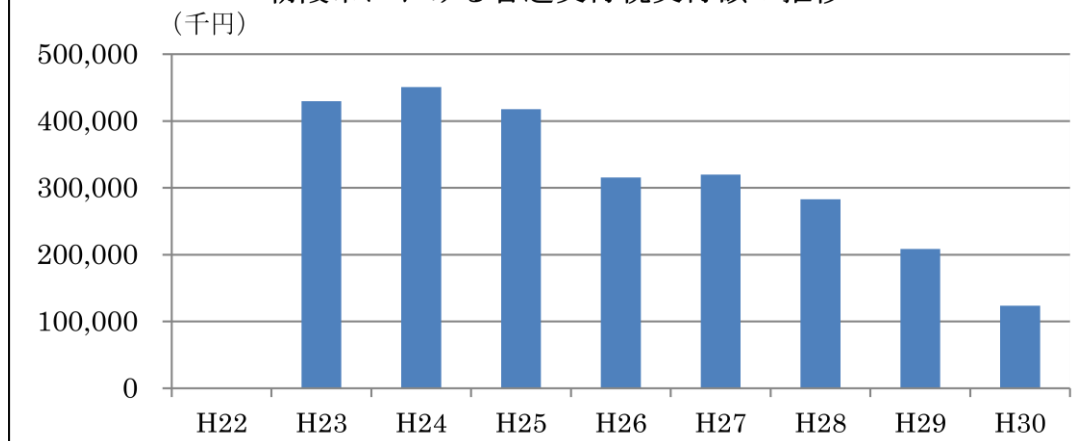
① 交付となる場合



② 不交付となる場合



朝霞市における普通交付税交付額の推移



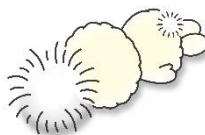
(単位:千円)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
普通交付税交付額	不交付	429,685	450,668	417,861	315,666	319,699	282,874	208,235	123,664

ちなみに、地方交付税には、普通交付税の他に「特別交付税」というのもあって、普通交付税に反映できない地域ごとの特別な事情や災害などの突発的な状況の時に発生する需要に対して交付されるものもあるんだよ。

休憩できなかったぼ。
むずかしいんだぼ。

〇〇〇



自由なお金が少ない!?

2 経常収支比率

経常収支比率とは、財政構造の柔軟さが分かる指標で、「毎年収入される市税などの経常一般財源、減税補てん債（特例分）や臨時財政対策債」（自由に使える歳入）を、「人件費や扶助費などの決まった支出」（必ず必要な歳出）に対してどの程度充てているかの割合で算出される指標だよ。

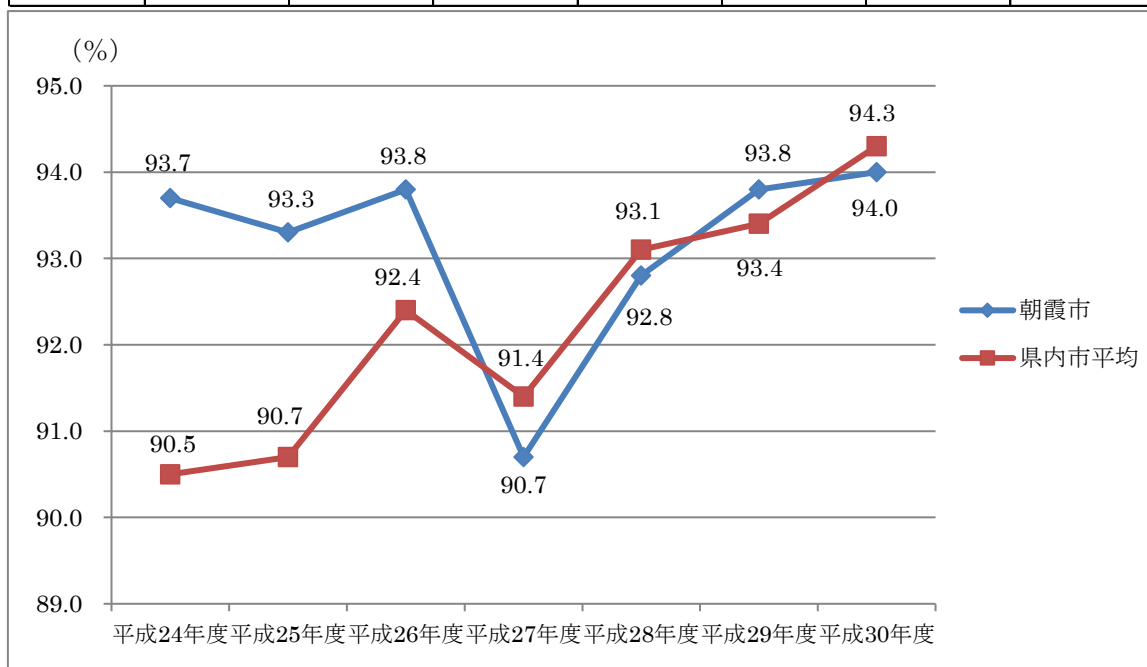
この指標が高いと、毎年決まった事にお金がかかってしまい、新しい市民サービスの提供などに使える自由なお金が少ないんだ。

だから、この比率が低いほうが色々な市民サービスに使えるお金が多いということになるんだ。平成30年度は、比率の低い順（良い方）からみて、県内40市中25番目だったよ。

平成30年度は、市税収入などは増えているんだけど、扶助費などの必要な支出はもっと増えていて、前年度より自由なお金の割合が少ないんだよ。

(単位: %)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
朝霞市	93.7	93.3	93.8	90.7	92.8	93.8	94.0



ぽぽたんのぎもん①→ P26で解説するよ!

朝霞市は黒字で、市税収入も増えているはずなのに、自由に使えるお金の割合は減っているんだね。

ということは、ここからどのようなことが読み取れるかな? また、今後はどうしていけばよいのかな?

どうしよう...

チェック！！

3 健全化判断比率

健全化判断比率とは、地方財政が破たんしないように（赤字が続いたり、借金の返済などによって市民サービスができなくならないように）チェックするための指標だよ。「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」で決まっているんだよ。



次の4つの指標の内、一つでも早期健全化基準以上だった場合、「財政健全化団体」に指定され、財政健全化に取り組むことが義務付けられているよ。

さらに、一つでも財政再生基準以上だった場合は、「財政再生団体」に指定され、自主的な財政運営が制限されるとともに、国の監督下で財政再建に取り組むことになるんだ。財政再建計画を作って国に報告する義務があったり、自由に借金ができなくなったりするんだよ。

朝霞市は4つのどの指標も基準を下回っていて、健全な状態で財政運営を行っているんだよ。

【実質赤字比率】

一般会計の実質赤字額が標準財政規模(※)に対してどれくらいあるのかを表す指標だよ。朝霞市の一般会計は赤字じゃないよ。 ※P18で説明するよ

(単位: %)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
朝霞市	-	-	-	-	-	-	-
早期健全化基準	12.30	12.28	12.28	12.23	12.18	12.16	12.13
財政再生基準	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00

※実質赤字額がないため「-」と表記しているよ。

【連結実質赤字比率】

全会計の実質赤字額（又は資金不足額）が標準財政規模に対してどれくらいあるのかを表す指標だよ。朝霞市は全会計をあわせても赤字じゃないよ。

(単位: %)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
朝霞市	-	-	-	-	-	-	-
早期健全化基準	17.30	17.30	17.28	17.23	17.18	17.16	17.13
財政再生基準	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00

※連結実質赤字額がないため「-」と表記しているよ。

赤字はないね！



県内の市平均
より低いね！



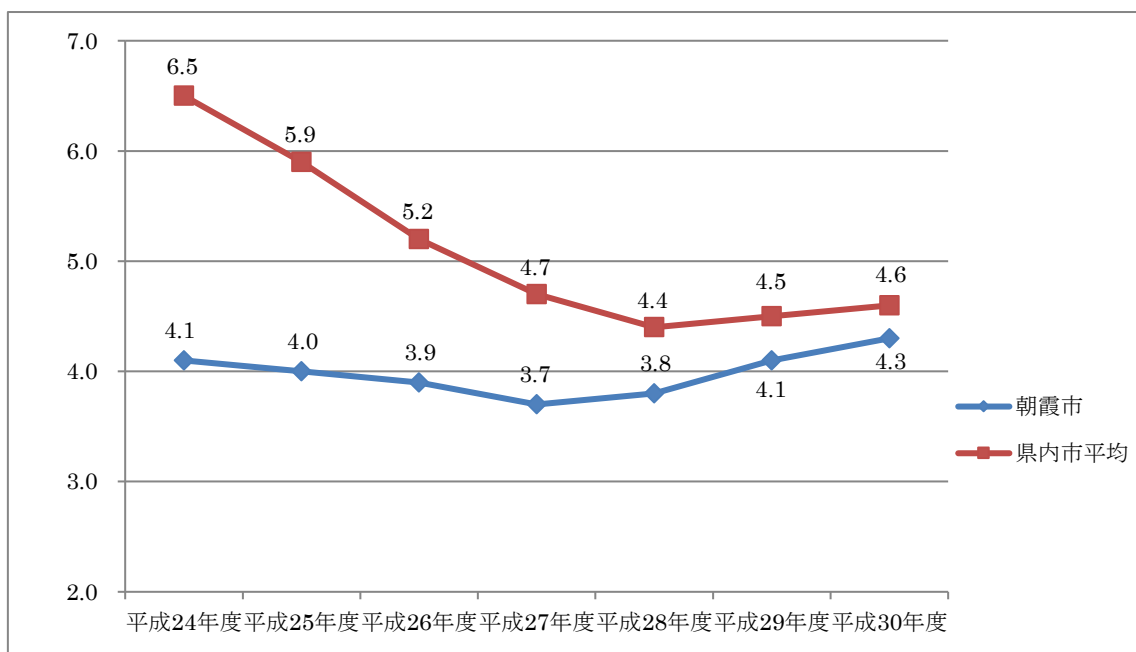
【実質公債費比率】

一般会計が１年間で支払う借金の返済額（公債費）が、標準財政規模に対してどれくらいあるのかを表すための指標なんだ。

平成３０年度は、実質公債費比率の低い順（良い方）からみて、朝霞市は県内４０市中１９番目なんだよ。早期健全化基準を大きく下回っていて、さらに県内市平均も下回っているよ。近年は、やや上昇している状況だよ。

（単位：％）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
朝霞市	4.1	4.0	3.9	3.7	3.8	4.1	4.3
早期健全化基準	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0
財政再生基準	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0



※標準財政規模…地方公共団体が標準的な状態で収入できるだろう経常一般財源（毎年度継続的に収入される使いみちに制限のない収入）の規模を示すものだ。標準財政規模は、次の算式で求められるんだ。

標準財政規模＝標準税収入額等＋普通交付税額＋臨時財政対策債発行可能額

標準税収入額等…標準税率による税収入、地方譲与税、交通安全対策特別交付金

（単位：千円）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
標準財政規模	22,066,854	22,349,750	22,371,324	23,004,151	23,577,204	23,867,884	24,374,531

負担は残したくないね

【将来負担比率】

一般会計が将来支払うべき借金の返済額（市債残高）などの負担の見込額が、標準財政規模に対してどれくらいあるかを示す指標だよ。

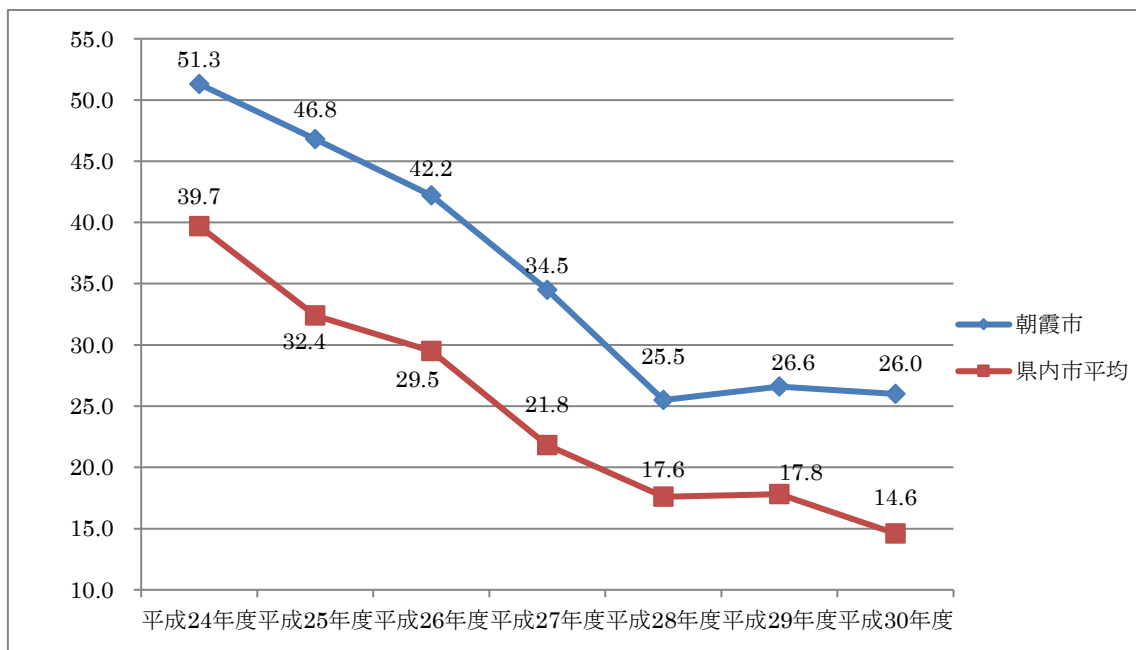
平成30年度は、将来負担比率の低い順（良い方）からみて、朝霞市は県内40市中28番目なんだよ。

県内市平均は上回っているけど、早期健全化基準を大きく下回っているんだ。ここ数年は、ほぼ横ばいに推移している状況だよ。



(単位: %)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
朝霞市	51.3	46.8	42.2	34.5	25.5	26.6	26.0
早期健全化基準	350.0	350.0	350.0	350.0	350.0	350.0	350.0
財政再生基準							



朝霞市は、赤字は無く、借金に頼り過ぎない財政運営を行っていて、4つの指標全てで早期健全化基準をクリアしているんだね。

いいかんじだほ！



第4章 予算編成

1 予算編成の流れ

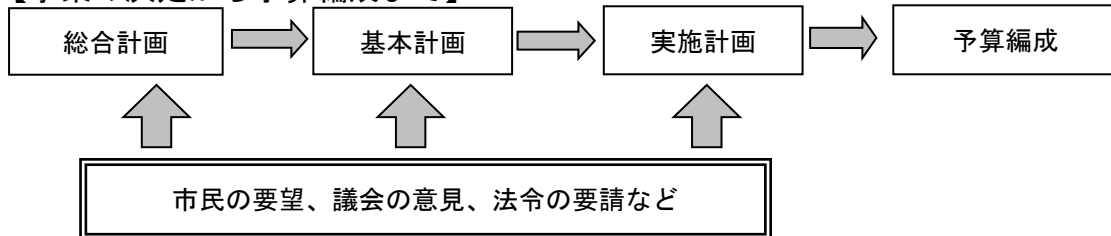
色々考えて
作っているんだね



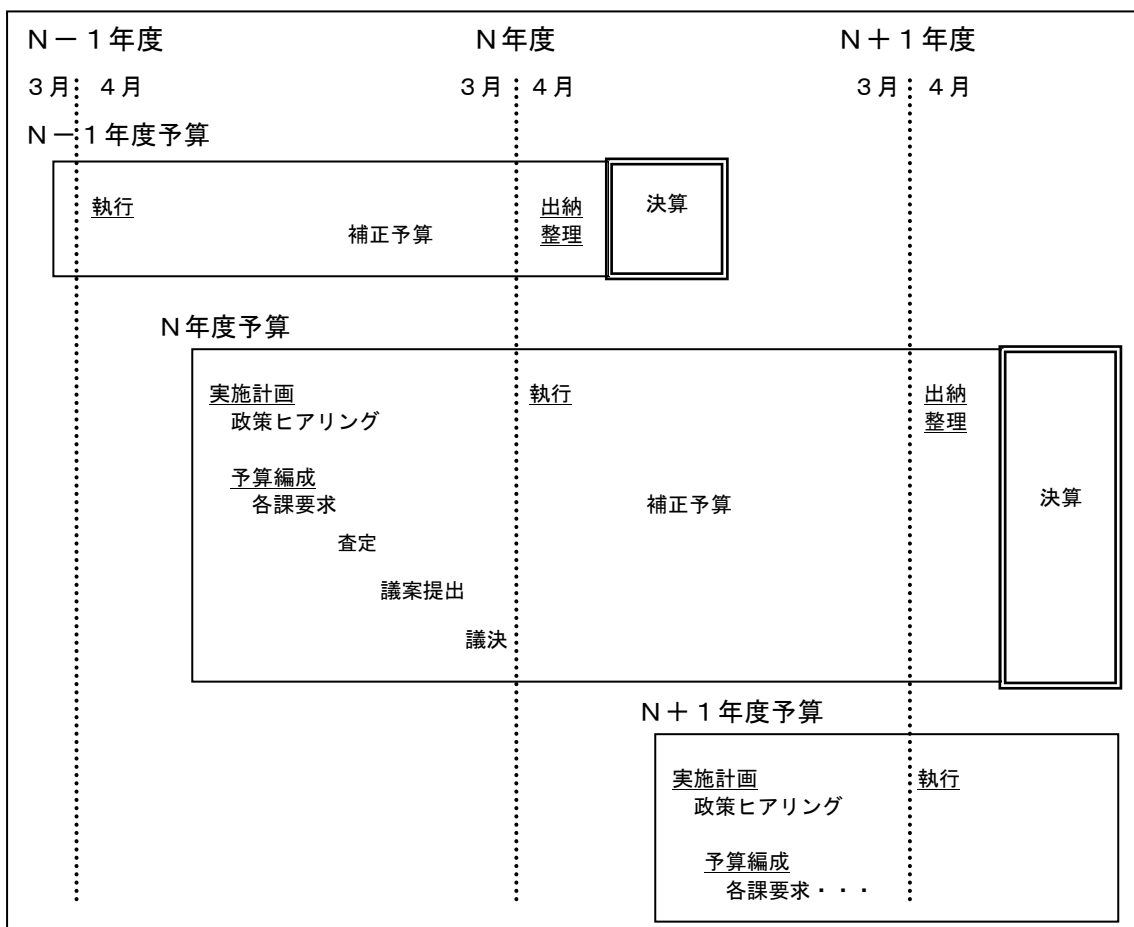
予算とは1年間の歳入と歳出の見積りのことで、予算編成とは、その見積りを作ることなんだよ。予算を作るといっても、ルールなどの決まりごとがないと決められないよね。そこで朝霞市では、総合計画に基づいて事業の優先度を政策的に判断し、優先度の高い事業については重点的に予算を配分する、「政策主導型」の予算編成を行っているんだよ。

歳入は限られているから、少ないお金でより良いサービスを提供できるように予算編成に取り組んでいるんだ。

【事業の決定から予算編成まで】

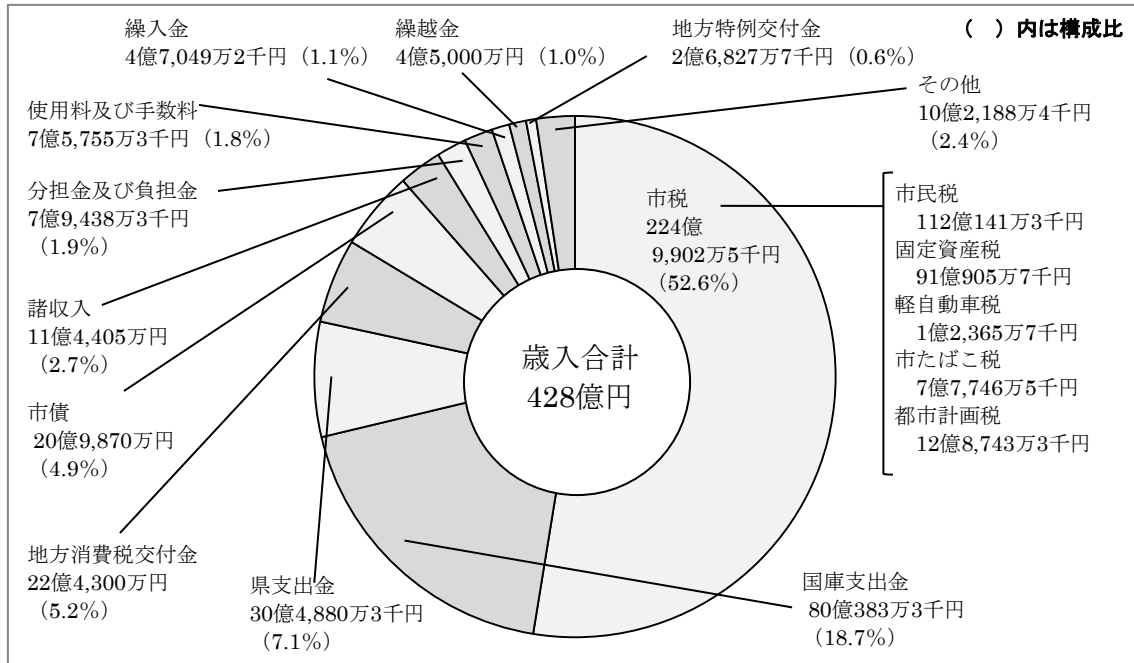


【予算編成の流れ】



2 令和元年度一般会計当初予算（歳入）

今年どのくらいお金が
入ってくるかの予想だよ



(単位:千円・%)			(単位:千円・%)		
款	予算額	構成比	款	予算額	構成比
★市 税	22,499,025	52.6	交通安全対策特別交付金	14,546	0.0
★地 方 譲 与 税	206,000	0.5	★分 担 金 及 び 負 担 金	794,383	1.9
利 子 割 交 付 金	36,000	0.1	★使 用 料 及 び 手 数 料	757,553	1.8
配 当 割 交 付 金	114,000	0.3	★国 庫 支 出 金	8,003,833	18.7
株式等譲渡所得割交付金	127,000	0.3	★県 支 出 金	3,048,803	7.1
地方消費税交付金	2,243,000	5.2	★財 産 収 入	108,337	0.3
ゴルフ場利用税交付金	13,000	0.0	★寄 附 金	1	0.0
自動車取得税交付金	40,000	0.1	★繰 入 金	470,492	1.1
環境性能割交付金	16,000	0.0	★繰 越 金	450,000	1.0
国有提供施設等所在			★諸 収 入	1,144,050	2.7
市町村助成交付金	121,000	0.3	市 債	2,098,700	4.9
地方特例交付金	268,277	0.6	合 計	42,800,000	100.0
地方交付税	226,000	0.5			

※★は自主財源を、それ以外は依存財源を表しているよ。

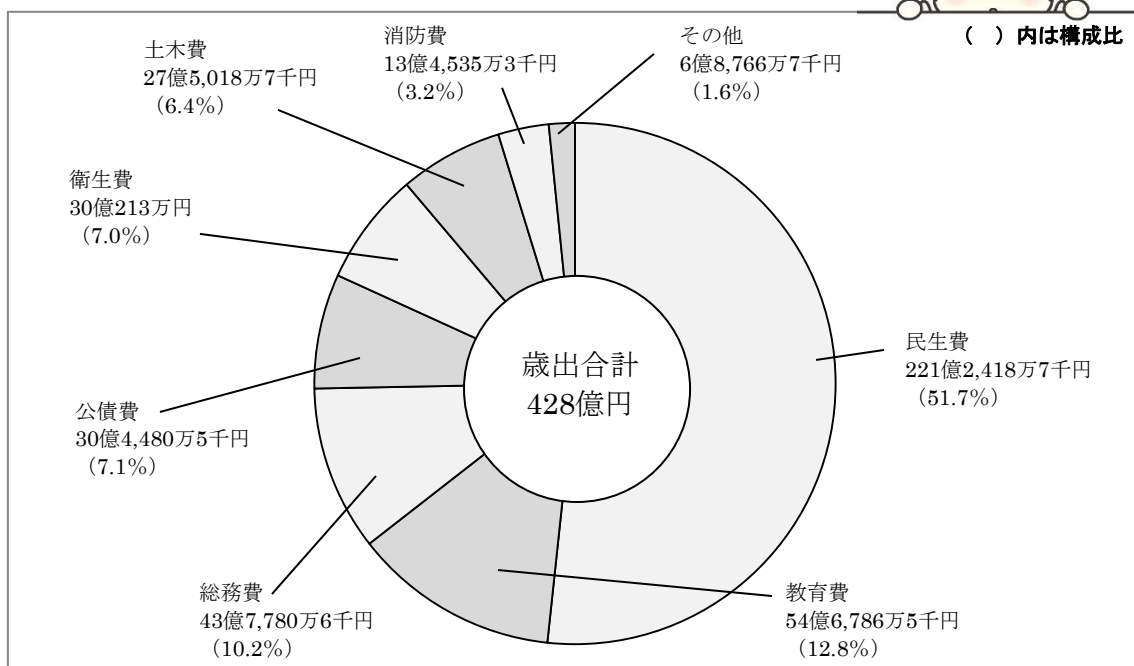
入ってくるお金以上にお金を使うと赤字になってしまう
から、歳入予算額と歳出予算額は、同じ額として見積る
んだよ。

まめちしき



市がその年に行う予定のことは、
歳出予算を見れば分かるんだね

3 令和元年度一般会計当初予算（歳出）



(単位: 千円・%)

款	費	予算額	構成比
議	会	280,689	0.7
総	務	4,377,806	10.2
民	生	22,124,187	51.7
衛	生	3,002,130	7.0
労	働	1,378	0.0
農	林	76,518	0.2
商	工	273,075	0.6

款	費	予算額	構成比
土	木	2,750,187	6.4
消	防	1,345,353	3.2
教	育	5,467,865	12.8
公	債	3,044,805	7.1
諸	支	6,007	0.0
予	備	50,000	0.1
合	計	42,800,000	100.0

議会費…議会の活動のための経費

総務費…徴税・戸籍・選挙・統計などのための経費

民生費…福祉や保育など、住民の一定水準の生活を確保し、安定した社会生活を保障するための経費

衛生費…公害対策やごみ処理など、住民の健康で衛生的な生活環境を保持するための経費

労働費…労働者を支援する各種事業のための経費

農林水産業費…農業の改良や組合の指導育成、農業施設の管理のための経費

商工費…中小企業への融資支援、商工業の振興などのための経費

土木費…道路橋りょうの整備・改良、都市計画などのための経費

消防費…災害から地域住民の生命と財産を守るために必要な消防設備などの整備を行うための経費

教育費…学校・博物館・公民館・図書館などの施設の設置管理、その他教育や学術文化に関する事務を行うための経費

公債費…市が借り入れした市債（借金）の元金、利子の償還（返済）費

まだまだ
気になるなあ

番外編 ほぽたんのぎもん

色々難しい言葉がでてきてほぽたんには難しかったかな？
もう少し説明が必要なところについて、解説するよ！



ぎもん① P5より
市税が減収になるとどうなっちゃうのかな？

こたえ①

朝霞市の歳入の半分以上は市税であることをさっき勉強したよね。だから、市税が減ると、これまで行ってきた市民サービスが提供できなくなってしまうおそれがあるんだよ。

市税には、景気の影響を受けやすいといった特徴があるんだ。だから、そんなときのためにある程度貯金をしておく必要があるんだよ。その貯金のことをP13で説明した財政調整基金と言うんだ。

～さらにいうと～

最近話題となっている「ふるさと納税」。寄附によりふるさとを応援するという趣旨は大切だね。だけどこの制度によって、本来朝霞市に入ってくるはずだった市民税も影響（減収）を受けているんだよ。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
①	75万5千円	4,028万5千円	6,263万1千円
②	7,148万8千円	1億3,129万5千円	1億8,932万2千円
差引収支	△7,073万3千円	△9,101万円	△1億2,669万1千円

① 朝霞市のふるさと納税受入額（朝霞市がいただいた個人からの寄附金額）

② 市民税の寄附金税額控除額（朝霞市民が他市などへ寄附をした分の
市民税の減収額）

このように制度の拡大によって、差引収支のマイナスは年々増えているんだ。このままだと市民サービスに影響が出ることも考えられるから、朝霞市のPRをしたりして、朝霞市にもふるさと納税をしてもらえるよう工夫をしているんだよ。

ぎもん② P6より
市民一人当たりの市税負担額より、使われたお金の方が多い理由は？
民生費は具体的にどんなサービスがあって、なんで今後も増えていくの？

こたえ②

歳入には、市税だけでなく、国や県からもらうものや施設の使用料など、色々な種類の収入があるんだ。そういったものを活用することで、市民に負担してもらう市税以上に、たくさんのサービスを行えるように工夫しているんだよ。

民生費は、いわゆる福祉や医療などの経費で、具体的には、重い病気や障害者の方々のお手伝いや高齢者がおうちで自立した生活を送るためのお手伝い、こども医療費の支払いや保育園の整備・運営などの費用があるよ。

これらの事業は市民の生活に直結しているので、減らすことが難しいから、今後も増加していくものと考えられているんだよ。

ぎもん③ P9より

扶助費がこれからも増えていくと、朝霞市の財政状況はどうなるの？

こたえ③

繰り返しになるけど、扶助費は市民の生活を支えるために必須のものなんだ。また、扶助費は義務的経費とも呼ばれ、支払うことが義務付けられている費用なんだ。そのため、扶助費が減ることは特別な理由がない限りは考えられないんだよ。そして、扶助費がこのままどんどん増えていくと、新しいことやほかのことに使えるお金が減っていつてしまうんだ。

だから今後は、お金の使いみちに優先順位をつけていくことが、ますます大事になってくるんだよ。

～さらにいうと～

消費税の増税（平成26年4月から5%→8%）による増収分は、社会保障関係経費（増え続けている民生費や扶助費など）に充てることになっているんだ。でも・・・

○歳入が増える分より、歳出がたくさん増えていつている

①歳入 → 9億7,811万1千円

平成30年度決算での増税分歳入（社会保障財源化分の地方消費税交付金）

②歳出 → 23億573万3千円

平成26年と平成30年の比較で増えた社会保障関係経費の一般財源

（国や県の負担する分を除いた、朝霞市の負担分）が

平成26年度決算 84億 907万6千円に対して、

平成30年度決算 107億1,480万9千円に増えた

①と②を比較すると、②歳出のほうが13億2,762万2千円多い

○物品の購入や工事について市も消費税の増税分を払うので、市の歳出も増える

などの理由から安心はできないんだよ。



ぎもん④ P10より

黒字ということは、朝霞市はお金持ちなのかな？

こたえ④

もちろん黒字なのはいいことだけど、予算の仕組み上、地方公共団体はほとんどが黒字なんだよ。朝霞市の状況としては、景気の回復にあわせて市税収入も増えているし、人口も毎年増えているんだ。でもね、次々に新しい行政課題が出てきて、それに対応するためにはたくさんのお金が必要になってくるんだ。

例えば、昔に建てた建物や道路などが古くなって修理しないと使えないとか、扶助費が年々増加しているなど、朝霞市が抱えている課題はたくさんあるんだ。だから、その年だけ見て、「黒字だから大丈夫」っていうことは言えないんだ。それよりも、「将来に備えなければいけない」という危機感を持っていないと、災害などの不測の事態が起きた時に対応できなくなってしまうんだ。

平成30年度の実質単年度収支は黒字だけど、借金の返済も残っているし、貯金もまだまだ少ないから、朝霞市はお金持ちであるとは言いきれないんだ。

ぎもん⑤ P13より

借金があるのに貯金もあるのはなんでだろう？

こたえ⑤

P11でも説明したけれど、朝霞市の借金には、市民が長い期間にわたって使う施設の建設費などを、将来利用する市民にも借金の返済という形で負担してもらって世代間負担の公平性を保つ、という効果があるんだ。また、朝霞市が借金をするときには、原則として「お金が足りないからという理由」ではなく、「道路を作る・施設の改修をするなどの具体的な理由」が必要なんだ。しかも、「具体的な理由」について、事前に埼玉県に届出や協議をした上で、その事業に実際にかかった費用のうち決まった割合までしか借りられないんだ。以上のように、借金には色々ルールがあって、お金が足りないからといって急に借りられるものではないんだ。

家計に置き換えて考えると、住宅ローン（借金）を払いながら、他の支出に備えて貯金することは普通だよ。それと同じように朝霞市も、新しい建物を建てたりして大きな支出があると借金をするし、その借金を払い終わる前でも、災害などの突然の支出に備えて貯金する必要があるんだ。



ぎもん⑥ P14より

財政力指数は「1」を超えたほうがいいの？それとも超えないほうがいいの？

こたえ⑥

もし財政力指数がとても大きければ、他の地方公共団体と比較したとき、財政的に余裕があるといえるね。だけど、財政力指数が1を超えると、

①普通交付税がもらえなくなる（不交付団体になる）

②国や県からの補助金の補助率が下がって、もらえる補助金の額が下がるなどのデメリットもあるんだよ。

また、不交付団体になると、税収が上がったり下がったりしたときには、その影響を全額受けてしまうんだよ（交付団体であれば、影響の一部は地方交付税をもらってカバーできるんだ）。

朝霞市はもう少しで財政力指数が「1」を超えそうな状況なんだ。仮に少しだけ「1」を超えたとしたら、税収があまり変わらないのに上のデメリットの影響を受けてしまうから、逆に財政的に不利な状況になる可能性があるんだ。

※ちなみに財政力指数は、実際の歳入や歳出で計算するのではなく、「歳入の見込み額」と、「人口や面積などから計算した必要とされる額」を比べた財源不足額から計算しているんだよ。そのため、実際に必要な金額と少し違うところがあるんだ。

ぎもん⑦ P16より

朝霞市は黒字で市税収入も増えているはずなのに、自由なお金の割合は減っているんだね。ということは、ここからどのようなことが読み取れるかな？

こたえ⑦

黒字と言うことは、今のところは収入の範囲内で必要な市民サービスを行えているといえるね。市税収入も増えているので、安心・・・に見えるかもしれない。だけど、自由なお金の割合が減っているということは、市税収入が増えた分以上に、扶助費などの義務的経費が大きく増えていることが読み取れるね。

これから市税収入の大幅な伸びが期待できない中、いろいろな市民サービスは続けていかななくてはいけない。

朝霞市は今後、なるべく少ないお金で効率よく市民サービスを行い、市民に満足してもらえるように工夫や努力をしていく必要があるんだ。



ぼくと一緒に勉強してくれてありがとう。

とっても難しかったけど、最後まで頑張ったほ！

ぽぽたん、最後まで付き合ってくれてありがとう。

でも、少し難しかったよね。わからないことがあったら、いつでも聞いてね。

また、本冊子を見られた市民の皆さまが朝霞市の財政に興味を持っていた
だき、少しでも身近に感じていただけたら幸いです。

資料編

本編に関連するデータを掲載しています。

資料 1 歳入・歳出決算額の推移

資料 2 実質収支の推移（一般会計）

資料 3 市債現在高の推移

資料1 歳入・歳出決算額の推移

単位：千円・%

年度 款	平成10年度	平成20年度	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	決 算 額	決 算 額	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率
市 税	17,161,829	21,056,700	20,782,769	△ 1.3	19,950,261	△ 4.0	20,104,139	0.8	20,306,302	1.0	20,532,649	1.1	20,869,175	1.6	21,263,529	1.9	21,634,756	1.7	22,031,011	1.8	22,513,237	2.2
地 方 譲 与 税	209,816	249,768	234,012	△ 6.3	229,808	△ 1.8	235,076	2.3	219,575	△ 6.6	210,324	△ 4.2	191,649	△ 8.9	200,716	4.7	215,524	7.4	215,174	△ 0.2	217,545	1.1
利 子 割 交 付 金	133,944	88,652	72,020	△ 18.8	64,238	△ 10.8	50,670	△ 21.1	45,221	△ 10.8	41,231	△ 8.8	36,704	△ 11.0	32,193	△ 12.3	20,791	△ 35.4	33,775	62.5	34,182	1.2
配 当 割 交 付 金		34,990	27,467	△ 21.5	34,518	25.7	39,600	14.7	45,710	15.4	87,513	91.5	166,877	90.7	130,680	△ 21.7	86,741	△ 33.6	116,268	34.0	95,210	△ 18.1
株式等譲渡所得割交付金		12,098	14,710	21.6	11,602	△ 21.1	9,839	△ 15.2	13,258	34.7	143,940	985.7	102,340	△ 28.9	132,599	29.6	52,978	△ 60.0	127,269	140.2	87,835	△ 31.0
地方消費税交付金	958,273	932,239	994,686	6.7	992,977	△ 0.2	1,002,726	1.0	1,013,566	1.1	1,004,928	△ 0.9	1,228,034	22.2	2,043,702	66.4	1,855,695	△ 9.2	2,009,905	8.3	2,257,714	12.3
コ ^レ ル ⁷ 場利用税交付金	28,215	15,304	15,884	3.8	14,371	△ 9.5	14,051	△ 2.2	13,748	△ 2.2	13,885	1.0	14,549	4.8	14,454	△ 0.7	14,572	0.8	13,514	△ 7.3	12,951	△ 4.2
特別地方消費税交付金	3,397																					
自動車取得税交付金	195,127	173,203	101,440	△ 41.4	88,558	△ 12.7	53,773	△ 39.3	95,094	76.8	83,001	△ 12.7	37,294	△ 55.1	60,560	62.4	62,666	3.5	89,353	42.6	92,650	3.7
国有提供施設等所在市町村 助 成 交 付 金	89,945	41,177	79,892	94.0	100,746	26.1	100,655	△ 0.1	117,194	16.4	111,354	△ 5.0	111,376	0.0	115,181	3.4	121,629	5.6	121,385	△ 0.2	121,142	△ 0.2
地方特例交付金		295,056	267,288	△ 9.4	243,510	△ 8.9	309,688	27.2	130,160	△ 58.0	123,587	△ 5.0	111,934	△ 9.4	111,539	△ 0.4	121,176	8.6	132,483	9.3	161,086	21.6
地 方 交 付 税	1,583,280	139,970	140,124	0.1	160,397	14.5	589,349	267.4	625,351	6.1	584,041	△ 6.6	452,249	△ 22.6	467,441	3.4	401,441	△ 14.1	322,964	△ 19.5	291,488	△ 9.7
交通安全対策特別交付金	20,188	17,642	17,824	1.0	16,676	△ 6.4	16,108	△ 3.4	16,077	△ 0.2	16,061	△ 0.1	14,345	△ 10.7	15,028	4.8	14,494	△ 3.6	14,117	△ 2.6	13,035	△ 7.7
分担金及び負担金	420,430	483,450	503,338	4.1	499,344	△ 0.8	513,738	2.9	562,107	9.4	631,809	12.4	696,599	10.3	838,475	20.4	857,452	2.3	920,729	7.4	964,802	4.8
使用料及び手数料	652,087	765,683	749,512	△ 2.1	745,721	△ 0.5	738,879	△ 0.9	749,512	1.4	736,956	△ 1.7	732,790	△ 0.6	741,909	1.2	739,749	△ 0.3	723,030	△ 2.3	745,329	3.1
国 庫 支 出 金	2,020,625	3,299,798	6,239,445	89.1	4,977,568	△ 20.2	5,416,952	8.8	5,148,676	△ 5.0	5,226,516	1.5	5,895,068	12.8	6,360,587	7.9	7,411,567	16.5	6,963,704	△ 6.0	7,070,614	1.5
県 支 出 金	1,031,561	1,335,321	1,346,947	0.9	1,726,818	28.2	2,049,425	18.7	2,139,928	4.4	2,078,387	△ 2.9	2,182,265	5.0	2,290,350	5.0	2,390,167	4.4	2,415,281	1.1	2,589,386	7.2
財 産 収 入	28,041	20,689	14,952	△ 27.7	31,359	109.7	339,525	982.7	142,037	△ 58.2	229,278	61.4	93,909	△ 59.0	51,234	△ 45.4	91,119	77.8	48,088	△ 47.2	59,611	24.0
寄 附 金	25,300	3,827	391	△ 89.8	484	23.8	414	△ 14.5	10,848	2519.9	5,613	△ 48.3	817	△ 85.4	1,819	122.6	1,013	△ 44.3	40,375	3884.0	63,909	58.3
繰 入 金	190,251	352,925	151,104	△ 57.2	848,949	461.8	111,852	△ 86.8	433,440	287.5	1,002,795	131.4	319,045	△ 68.2	173,241	△ 45.7	65,671	△ 62.1	384,144	484.9	465,779	21.3
繰 越 金	1,957,859	1,846,120	1,772,925	△ 4.0	1,360,091	△ 23.3	1,224,624	△ 10.0	1,118,883	△ 8.6	1,076,081	△ 3.8	1,418,228	31.8	947,530	△ 33.2	1,074,221	13.4	1,065,725	△ 0.8	1,134,089	6.4
諸 収 入	904,738	1,089,693	1,039,896	△ 4.6	1,327,139	27.6	1,146,367	△ 13.6	1,177,350	2.7	1,324,670	12.5	1,243,093	△ 6.2	1,249,863	0.5	1,341,701	7.3	1,346,615	0.4	1,385,178	2.9
市 債	2,160,000	3,170,478	3,968,731	25.2	2,318,167	△ 41.6	2,275,173	△ 1.9	2,114,184	△ 7.1	1,770,552	△ 16.3	1,713,809	△ 3.2	1,856,585	8.3	1,686,090	△ 9.2	2,380,272	41.2	2,648,341	11.3
合 計	29,774,906	35,424,783	38,535,357	8.8	35,743,302	△ 7.2	36,342,623	1.7	36,238,221	△ 0.3	37,035,171	2.2	37,632,149	1.6	39,099,215	3.9	40,261,213	3.0	41,515,181	3.1	43,025,113	3.6

年度 款	平成10年度	平成20年度	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	決 算 額	決 算 額	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率	決 算 額	増減率
議会費	257,300	252,927	275,908	9.1	250,438	△ 9.2	311,907	24.5	296,191	△ 5.0	290,729	△ 1.8	292,300	0.5	282,878	△ 3.2	280,222	△ 0.9	280,862	0.2	274,191	△ 2.4
総務費	3,971,951	4,189,710	4,424,094	5.6	4,201,084	△ 5.0	3,872,845	△ 7.8	3,920,221	1.2	4,291,635	9.5	4,758,979	10.9	5,672,270	19.2	5,331,762	△ 6.0	5,507,994	3.3	5,614,191	1.9
民生費	6,807,808	11,418,903	12,165,940	6.5	14,844,261	22.0	15,575,434	4.9	16,070,055	3.2	16,882,399	5.1	17,852,152	5.7	18,559,284	4.0	20,101,436	8.3	20,494,668	2.0	20,948,500	2.2
衛生費	2,774,153	2,740,339	2,530,526	△ 7.7	2,895,845	14.4	2,952,128	1.9	2,900,293	△ 1.8	2,680,223	△ 7.6	2,859,516	6.7	2,727,219	△ 4.6	2,778,296	1.9	2,720,861	△ 2.1	2,940,213	8.1
労働費	58,514	29,212	26,914	△ 7.9	27,098	0.7	26,359	△ 2.7	24,361	△ 7.6	24,353	△ 0.0	1,466	△ 94.0	1,454	△ 0.8	1,419	△ 2.4	1,397	△ 1.6	1,368	△ 2.1
農林水産業費	68,646	79,051	78,363	△ 0.9	89,024	13.6	69,390	△ 22.1	72,562	4.6	74,008	2.0	71,655	△ 3.2	69,987	△ 2.3	64,407	△ 8.0	65,387	1.5	68,165	4.2
商工費	1,124,276	202,421	2,159,463	966.8	231,435	△ 89.3	228,284	△ 1.4	244,404	7.1	256,535	5.0	255,314	△ 0.5	379,228	48.5	232,536	△ 38.7	261,610	12.5	270,901	3.6
土木費	4,668,409	3,669,699	3,348,861	△ 8.7	2,832,641	△ 15.4	2,869,059	1.3	3,147,178	9.7	2,595,626	△ 17.5	2,161,457	△ 16.7	2,424,980	12.2	2,560,266	5.6	2,799,268	9.3	2,881,007	2.9
消防費	1,638,085	1,288,258	1,280,101	△ 0.6	1,274,330	△ 0.5	1,253,789	△ 1.6	1,250,939	△ 0.2	1,266,693	1.3	1,265,516	△ 0.1	1,309,480	3.5	1,301,850	△ 0.6	1,460,707	12.2	1,361,809	△ 6.8
教育費	3,724,707	6,953,379	8,007,634	15.2	4,878,564	△ 39.1	4,931,987	1.1	4,079,980	△ 17.3	4,054,108	△ 0.6	4,011,543	△ 1.0	3,601,534	△ 10.2	3,556,456	△ 1.3	3,808,949	7.1	4,328,006	13.6
公債費	2,493,935	2,822,100	2,874,225	1.8	2,991,975	4.1	3,132,393	4.7	3,155,720	0.7	3,200,426	1.4	3,154,633	△ 1.4	2,996,465	△ 5.0	2,986,810	△ 0.3	2,979,347	△ 0.2	2,995,554	0.5
諸支出金	223,402	5,859	3,237	△ 44.8	1,983	△ 38.7	165	△ 91.7	236	43.5	208	△ 12.4	88	△ 57.6	215	144.4	28	△ 87.0	42	47.5	40	△ 4.8
合計	27,811,186	33,651,858	37,175,266	10.5	34,518,678	△ 7.1	35,223,740	2.0	35,162,140	△ 0.2	35,616,943	1.3	36,684,619	3.0	38,024,994	3.7	39,195,488	3.1	40,381,092	3.0	41,683,945	3.2

資料2 実質収支の推移（一般会計）

単位：円・％

区 分	25 年 度	26 年 度	27 年 度	28 年 度	29 年 度	30 年 度
予 算 現 額	37,131,871,458	37,868,649,400	39,468,402,667	41,002,353,180	41,950,379,742	43,046,912,636
最 終 予 算 額 (前年度からの継続費及び繰越事業費財源充当額を除いたもの。)	36,805,029,000	37,338,560,000	39,078,111,000	40,416,656,000	41,195,444,000	42,459,809,000
歳 入 決 算 額 A	37,035,171,254	37,632,149,420	39,099,215,932	40,261,213,797	41,515,180,839	43,025,113,347
収 納 率	99.7	99.4	99.1	98.2	99.0	99.9
歳 出 決 算 額 B	35,616,943,213	36,684,619,991	38,024,994,143	39,195,487,917	40,381,092,126	41,683,945,275
執 行 率	95.9	96.9	96.3	95.6	96.3	96.8
歳 入 歳 出 差 引 額 A-B C	1,418,228,041	947,529,429	1,074,221,789	1,065,725,880	1,134,088,713	1,341,168,072
継 続 費 通 次 繰 越 額 D	57,711,200	11,754,840	16,275,800	10,949,742	12,944,596	49,651,658
繰 越 明 許 費 繰 越 額 E	15,752,000	31,997,200	48,559,380	48,921,200	101,716,040	172,046,000
事 故 繰 越 し 繰 越 額 F	28,069,200			801,000	0	0
実 質 収 支 C-D-E-F	1,316,695,641	903,777,389	1,009,386,609	1,005,053,938	1,019,428,077	1,119,470,414
実 質 収 支 比 率 (一 般 会 計)	5.9	4.0	4.4	4.3	4.3	4.6

資料3 市債現在高の推移

単位：千円

	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	令和元年度末見込
一般会計	32,442,721	31,441,606	30,386,209	29,587,241	28,571,896	28,221,744	28,089,210	27,809,967
(うち臨時財政対策債)	13,296,717	13,713,071	13,864,302	13,715,556	13,350,617	12,828,889	12,023,768	11,034,893
下水道事業特別会計	2,981,055	2,783,330	2,771,444	3,038,948	3,086,945	3,088,505	3,301,646	3,457,741
水道事業会計	4,621,789	4,283,309	3,931,418	4,235,746	4,566,720	4,807,088	4,851,916	5,087,003
特別会計合計	7,602,844	7,066,639	6,702,862	7,274,694	7,862,846	7,895,593	8,153,562	8,544,744
全会計合計	40,045,565	38,508,245	37,089,071	36,861,935	36,847,674	36,117,337	36,242,772	36,354,711

※令和元年度については令和元年9月末時点での見込みです。

用語集

～ア行～

○維持補修費【いじほしゅうひ】

歳出の性質別に区分したものの一つで、公共施設を修繕するなど、その効用を維持するために要する経費のこと。

○依存財源【いぞんざいげん】

国や県からの収入や借り入れによる財源のこと。地方交付税、国庫支出金、県支出金、地方譲与税、地方債などが該当する。

《関連：自主財源》

○一般会計【いっばんかいけい】

地方公共団体の基本的な行政運営経費を計上した会計のこと。

《関連：特別会計》

○一般財源【いっばんざいげん】

使い道に制限のない財源で、地方公共団体が自主的にその用途を決定できるもののこと。地方税、地方交付税、地方譲与税などが該当する。

《関連：特定財源》

○衛生費【えいせいひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、公害対策やごみ処理など、住民の健康で衛生的な生活環境を保持するために要する経費のこと。

～カ行～

○貸付金【かしつけきん】

歳出の性質別に区分したものの一つで、他の地方公共団体や民間団体への貸付に要する経費のこと。

○議会費【ぎかいひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、議会の活動のために要する経費のこと。

○教育費【きょういくひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、学校・博物館・公民館・図書館などの施設の設置管理、その他教育や学術文化に関する事務を行うために要する経費のこと。

○繰入金【くりいれきん】

歳入科目の一つで、基金の取り崩しや、他の会計からの繰り出しによって得る収入のこと。

○繰越金【くりこしきん】

歳入科目の一つで、前年度から当該年度へ持ち越された収入のこと。

○繰出金【くりだしきん】

歳出の性質別に区分したものの一つで、特別会計などに支出するために要する経費のこと。

○経常収支比率【けいじょうしゅうしひりつ】

財政構造の弾力性を示す指標。「毎年収入される市税などの経常一般財源、臨時財政対策債」を、「人件費や扶助費や公債費などの決まった支出」に対してどの程度充てているかの割合で算出される指標のこと。指数が高いほど、財政が硬直化していることになる。

○県支出金【けんししゅつきん】

歳入科目の一つで、県から、市町村が実施する特定の事業に対して交付される収入のこと。

○公営企業会計【こうえいきぎょうかいけい】

民間企業と同じように、基本的に事業による収益でまかなわれている会計のこと。朝霞市については水道事業が該当する。

○公債費【こうさいひ】

歳出の目的別または性質別に区分したものの一つで、地方債の元金の返済や利子の支払いにかかる経費のこと。

《関連：実質公債費比率、地方債》

○交付金【こうふきん】

歳入科目の一つで、国や都道府県が徴収した税金を一定の基準によって市町村に配分される収入のこと。利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、ゴルフ場利用税交付金などがある。

○国庫支出金【こっこししゅつきん】

歳入科目の一つで、国から、都道府県や市町村が実施する特定の事業に対して交付される収入のこと。

～サ行～

○財産収入【ざいさんしゅうにゅう】

歳入科目の一つで、地方公共団体が保有する財産の運用などで得る収入のこと。

○財政調整基金【ざいせいちょうせいききん】

想定外の歳入の減少や歳出の増加などに備えて、安定した財政運営を行うために積み立てている基金のこと。

○財政力指数【ざいせいりょくしすう】

市民サービスを行うために必要なお金を自分の力でどれだけ準備できるかを示す指標のこと。通常過去3か年の平均で表し、指数が大きいほど財政力が強いことになる。指数が「1」を超えると、国から普通交付税がもらえなくなる。

○自主財源【じしゅざいげん】

地方公共団体が自主的に収入している財源のこと。地方税、分担金及び負担金、使用料、手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入などが該当する。

《関連：依存財源》

○実質赤字比率【じっしつあかじひりつ】

一般会計の実質赤字額が標準財政規模に対してどれくらいあるのかを表す指標のこと。20パーセント以上で財政再生団体となる。

《関連：標準財政規模》

○実質公債費比率【じっしつこうさいひりつ】

一般会計が１年間で支払う借金の返済額（公債費）が、標準財政規模に対してどれくらいあるのかを表すための指標のこと。１８パーセントを超えると地方債発行に国の許可が必要となる。また、２５パーセント以上で財政健全化団体、３５パーセント以上で財政再生団体となる。

《関連：公債費、標準財政規模》

○実質収支【じっしつしゅうし】

歳入歳出差引額から翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた数値で、その年度の実質的な収支を表している数値のこと。

○実質単年度収支【じっしつたんねんどしゅうし】

実質的な黒字要素（財政調整基金への積立金や債務を繰り上げて償還した繰上償還金）や赤字要素（積立金取崩し額）が、歳入・歳出に措置されなかった場合、単年度収支がどのようになっていたかを表している数値のこと。

《関連：単年度収支》

○消防費【しょうぼうひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、災害から地域住民の生命と財産を守るために必要な消防設備などの整備に要する経費のこと。

○将来負担比率【しょうらいふたんひりつ】

一般会計が将来支払うべき借金の返済額（市債残高）などの負担の見込額が、標準財政規模に対してどれくらいあるかを示す指標のこと。市町村については、３５０パーセント以上で財政健全化団体となる。

《関連：標準財政規模》

○使用料及び手数料【しょうりょうおよびてすうりょう】

使用料は、市民センターや体育館などの公共施設の利用などに係る収入のこと。手数料は、住民票の発行など自治体の提供するサービスの対価として徴収する収入のこと。

○人件費【じんけんひ】

歳出の性質別に区分したものの一つで、市長・市職員の給与、市議会議員の報酬などの経費のこと。

○総務費【そうむひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、徴税・戸籍・選挙・統計などに要する経費のこと。

～タ行～

○単年度収支【たんねんどしゅうし】

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた数値のこと。１年間で黒字であったか赤字であったかを表している。

《関連：実質単年度収支》

○地方交付税【ちほうこうふぜい】

地方公共団体の自主性を損なわずに地方財源の不均衡を調整するために、国税の一部を合理的な基準によって、国から地方公共団体に交付される税のこと。

《関連：普通交付税、特別交付税、臨時財政対策債》

○地方債（市債）【ちほうさい（しさい）】

道路や学校、保育園など長い期間利用できる公共施設を整備する時などに、地方公共団体が資金調達として行う借り入れる債務のこと。現在の市民と将来の市民の負担を平等にする効果や、年度による出費の偏りをなくす効果などがある。

《関連：公債費》

○地方譲与税【ちほうじょうよぜい】

歳入科目の一つで、国が徴収した税金を一定の基準によって都道府県や市町村に配分される収入のこと。地方揮発油譲与税、自動車重量譲与税などがある。

○積立金【つみたてきん】

歳出の性質別に区分したものの一つで、財政調整基金などへの積み立てに要する経費のこと。

○特定財源【とくていざいげん】

使い道が特定されている財源のこと。国庫支出金、県支出金、地方債などが該当する。

《関連：一般財源》

○特別会計【とくべつかいけい】

特定の事業における歳入歳出について、一般会計と区別して計上した会計のこと。朝霞市においては、国民健康保険、下水道事業、介護保険、後期高齢者医療保険の4つの特別会計がある。

《関連：一般会計》

○特別交付税【とくべつこうふぜい】

普通交付税に反映できない地域ごとの特別な事情や災害などの突発的な状況の時に発生する需要に対して交付される税のこと。

《関連：地方交付税、普通交付税、臨時財政対策債》

○土木費【どぼくひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、道路橋りょうの整備・改良、都市計画などに要する経費のこと。

～ナ行～

○農林水産業費【のうりんすいさんぎょうひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、農業の改良や組合の指導育成、農業施設の管理などに要する経費のこと。

～ハ行～

○標準財政規模【ひょうじゅんざいせいきぼ】

地方公共団体が標準的な状態で収入しうる経常一般財源の規模を示すもののこと。

《関連：実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率》

○扶助費【ふじょひ】

歳出の性質別に区分したものの一つで、生活保護や児童福祉、障害者福祉などの社会保障に要する経費のこと。

○普通建設事業費【ふつうけんせつじぎょうひ】

歳出の性質別に区分したものの一つで、道路、公園、学校などの施設の建設事業など社会資本の整備に要する経費のこと。

○普通交付税【ふつうこうふぜい】

地方交付税の一つで、合理的・客観的な指標をもとに計算された標準的な行政経費（基準財政需要額）から、標準的な一般財源となる収入（基準財政収入額）を引いた額を交付基準額として国から地方公共団体に交付される税のこと。

《関連：地方交付税、特別交付税、臨時財政対策債》

○物件費【ぶっけんひ】

歳出の性質別に区分したものの一つで、施設の光熱水費や消耗品、備品購入費、各種委託料などに要する経費のこと。

○分担金及び負担金【ぶんたんきんおよびふたんきん】

歳入科目の一つで、分担金は、地方公共団体が条例に基づいて課す受益者負担金の一のこと。負担金は、ある事業について特別の利益関係にある者から、その経費の全部又は一部を受益の程度に応じて徴収する収入のこと。保育園や放課後児童クラブの保育料などがある。

○補助費等【ほじょひとう】

歳出の性質別に区分したものの一つで、各種団体に対する補助金や講師への謝礼などに要する経費のこと。

～マ行～

○民生費【みんせいひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、福祉や保育など、住民の一定水準の生活を確保し、安定した社会生活を保障するために要する経費のこと。

～ラ行～

○臨時財政対策債【りんじざいせいたいさくさい】

地方交付税の財源不足に対応するために、基準財政需要額などをもとに算出された額の範囲内で発行することができる地方債のこと。

《関連：地方交付税、普通交付税、特別交付税》

○連結実質赤字比率【れんけつじっしつあかじひりつ】

全会計の実質赤字額（又は資金不足額）が基準財政規模に対してどれくらいあるのかを表す指標のこと。30パーセント以上で財政再生団体となる。

○労働費【ろうどうひ】

歳出の目的別に区分したものの一つで、中小企業への融資支援、商工業の振興などに要する経費のこと。



作成 朝霞市総務部財政課

〒351-8501 埼玉県朝霞市本町1丁目1番1号

TEL 048-463-1111 (代表)

TEL 048-463-3179 (直通)